

## 『札幌市の国際化推進等に関する連携協定』連携事業

### —「多文化共生社会創成プロジェクト」報告書

#### 1. 事業の背景

日本政府は人口減少と高齢化進行による深刻な人材不足に対応するため、高度な知識・技能を持つ外国人材を積極的に受け入れる取り組みを実施しています。法務省の統計データによると、2019年には北海道の在留外国人が初めて4万人を突破し、2022年には4万5千人を超えました。札幌市における外国人も増え続けており、札幌市はそれに対応するため、外国人も地域住民も安心できる、住みやすい包摂的な社会の実現に向けて、2022年3月、（公財）札幌国際プラザ、札幌国際大学、札幌国際大学短期大学部の4者で、「札幌市の国際化推進等に関する連携協定」を結びました。この協定のもとで実行されているプロジェクトの一つである「多文化共生社会創成プロジェクト」では、札幌国際大学、札幌国際大学短期大学部の外国人留学生在が札幌市立小中学校を訪問し、文化・言語交流活動に積極的に取り組んでいます。本プロジェクトを通し、小中学生には、異文化理解の促進や国際的感覚を育むきっかけとなることを期待し、留学生には、日本文化や教育制度、風習を理解してもらい、また地域への帰属意識を高めることに期待します。

#### 2. 期待できる効果

関わる双方にメリットをもたらす活動になることを目指しています。

○小中学生への影響：留学生との交流を通し、国際理解を深める他、留学生の母語やその他の言語への興味を深め、外国語学習へのモチベーション向上が期待できます。昨今、海外へ留学する日本人学生の減少が懸念されていますが、この草の根レベルの活動が札幌の小中学生の国際力を養うための一助となることを目指します。

○留学生への影響：小中学生との交流を通し、日本文化への理解をより一層深め、また日本語学習へのモチベーション維持・向上が期待できます。こういった交流経験は、今後日本での活躍（職業選択、進学等）を目指す留学生にとって精神面での敷居を低くし、夢を描き易くする効果も少なからずあるとみています。

### 3. 事業の実施

訪問先学校の募集は、札幌市教育委員会を通して、札幌市内小中学校に公募しました。小中学校から提出された応募票をもとに総合的に検討した結果、以下 8 校の訪問先が決まりました。また、札幌市立西岡北中学校英語部とは初めての試みとなるオンライン交流の実施も決まりました。

日程	訪問先	対象	人数
2023/7/6	札幌市立本郷小学校	6年生	47名
2023/7/12	札幌市立東白石中学校	3年生	161名
2023/9/11	札幌市立山の手南小学校	4年生	81名
2023/9/20	札幌市立中央中学校	2年生	145名
2023/12/7	札幌市立石山緑小学校	6年生	70名
2023/12/13	札幌市立有明小学校	3・4年生	36名（学級閉鎖、中止）
2023/12/15	札幌市立西岡北中学校	英語部	15名（オンライン実施）
2024/2/21	札幌市立義務教育学校福移学園	3・4年生	20名
2024/2/27	札幌市立平岡南小学校	6年生	118名

#### 参加者状況

【留学生】53名【本学教職員】26名 ※共に延べ人数

【小学生】336名【中学生】321名

※共に実人数。実人数は在籍者をベースとしており、当日の欠席者数は把握していません。

## 札幌市立本郷小学校への訪問

7月6日（木）にマレーシア・ベトナム・ミャンマー・中国・香港・韓国の留学生有志8名が札幌市立本郷小学校（6年）を訪問しました。留学生が母国の食べ物や人気のあるキャラクターについて発表したあと、百人一首やあやとりなど、日本の伝統的な遊びを小学生に教わり、実際に体験しました。交流は英語で行われ、その歴史や遊び方の説明を一生懸命英語で伝える小学生の姿を留学生が笑顔で見守り、そして一緒に楽しむ姿がありました。



## 札幌市立東白石中学校への訪問

7月12日（水）にマレーシア・ベトナム・中国・香港・台湾の留学生有志5名が札幌市立東白石中学校（3年）を訪問しました。最初に、中学生が日本の文化や伝統、そして北海道と札幌の魅力について発表しました。その後、留学生が母国の食べ物や英語の勉強法などを紹介し、質疑応答になると質問が次々と飛び出し、活発な交流が展開されました。



## 札幌市立山の手南小学校への訪問

9月11日（月）、マレーシア・ベトナム・ミャンマー・中国・香港・台湾の留学生有志8名が札幌市立山の手南小学校（4年生）を訪問しました。留学生が、母国の地理や気候、食べ物、アニメなどについてプレゼンテーションを行った後、小学生からだるま落としや書道、けん玉など、日本の伝統的な遊びを教わりながら実際に体験しました。児童たちは、伝統的な遊びの歴史やルールを一生懸命英語と日本語で説明し、その様子を留学生が笑顔で見守り、一緒に楽しむ姿がありました。



## 札幌市立中央中学校への訪問

9月20日（水）、ミャンマー・中国・香港・台湾の留学生有志7名が札幌市立中央中学校（2年生）を訪問しました。留学生たちが母国の地理や食べ物、民族衣装、そして日本との文化の違いについてプレゼンテーションを行った後、中学生たちはグループに分かれて留学生の出身国別のブースを訪れました。各ブースでは、中学生たちが英語で日本のマナーや文化について説明した後、留学生に「あなたの国ではどうですか？」と質問し、日本との違いを見つけて驚いたり、共通点を見つけて共感したりする場面がありました。



## 札幌市立石山緑小学校

12月7日（木）、マレーシア・ベトナム・ミャンマー・香港・台湾の留学生有志8名が札幌市立石山緑小学校（6年生）を訪問しました。留学生は、母国の地理や食べ物、そして大切にされている行事などについてプレゼンテーションを行いました。その後、「外国の方に日本文化の魅力を伝えるために、どのような工夫が必要か」というテーマのもと、小学生はグループごとに和菓子や味噌、節分や生け花などの日本を代表するトピックを選び、ポスター形式で発表しました。留学生は新たな日本文化の魅力を発見し、手作りの小道具や身振り手振りを加えて一生懸命発表する児童たちを笑顔で見守りました。



## 札幌市立有明小学校

12月13日（水）に交流を予定した小学校では、交流対象の学年で学級閉鎖があったため、交流活動は中止となりました。

## 札幌市立西岡北中学校

12月15日（金）、マレーシア・ベトナム・ミャンマー・中国・台湾の留学生有志6名と教職員は、札幌市立西岡北中学校の英語部員と英語を使ってオンラインで交流しました。英語部の生徒たちが様々な質問を用意してくれたおかげで、とても楽しい時間となりました。質問タイムの後は、羊ヶ丘展望台や大通駅、小樽など北海道のおすすめスポットについても紹介してくれました。

## 札幌市立義務教育学校福移学園

2月21日（水）、マレーシア・ミャンマー・香港・台湾・韓国の留学生有志7名が札幌市立義務教育学校福移学園（3・4年生）を訪問しました。陳講師のウォーミングアップクイズのあとは、3年生からカテゴリー・色・形の3つのヒントをもらって「何か」を当てる3ヒントクイズを行いました。答えは、児童が手書きしたイラストで表示される工夫があり、大いに盛り上がりました。続いて4年生からは、事前に撮影・編集した学校紹介のビデオを上映しました。3・4年生ともに、習い始めて間もない英語を一生懸命実践していました。その後、留学生からは、母国の地理や食べ物、日本と異なる文化、母語での挨拶等を紹介しました。



## 札幌市立平岡南小学校

2月27日（火）、マレーシア・ミャンマー・香港・台湾・韓国の留学生有志6名とイギリス・ニュージーランド出身の英語教員2名が、札幌市立平岡南小学校（6年生）を訪問しました。コクスフォード講師によるウォームアップで緊張をほぐした後、留学生とデントン講師から、日本に来た理由や母

国の地理や食べ物、日本でカルチャーショックを受けたことなどについて紹介しました。その後、小学生はグループに分かれ、ポスター発表やクイズ形式のプレゼンテーション、空手や太鼓、絵描き歌のデモンストレーション等、工夫を凝らしながら日本の文化を紹介してくれました。最後には、児童が「糸」の合奏を披露してくれました。



#### 4. 今期活動において評価できる点

○小中学生にとって留学生との交流は、異文化理解や国際的感覚を養うきっかけになること以外にも、「留学生に向けた発表のために」と、準備に対するモチベーションの高さが実施校の先生より度々話題に挙げられていました。

○留学生にとっては、語学力向上のほか、他の留学生と共同する楽しさや、母国を紹介する機会の創出に喜びを見出していました。また地域の小中学生と交流することで地元への愛着が湧き、帰属意識が高まったと期待したいです。

## 5. 今後の課題

参加留学生が固定化しているため新たにリクルートすることが必須ですが、ボランティア活動である以上、強制力を持たないため難航しているのが現実です。一度参加すると定着してくれることが多いので、いかに有意義な活動であるか、先輩留学生の協力も得ながら地道に啓もう活動を続けていきます。

## 6. 2024 年度の展開

2023 年度は訪問 8 校 + オンライン 1 校、合計 9 校との交流を計画しました（内 1 校は学級閉鎖による中止）が、持続可能な形を考えると、年間最大 6 校との交流が望ましいと考えます。また希望があれば本学での受入れも選択肢に含み、少年少女期より本学の魅力を知ってもらうチャンスとしていきたいです。

総括： 陳 堯柏（札幌国際大学観光学部国際観光学科）

松村 知美（札幌国際大学国際課）